

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202718		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホーム 花ぞ野		
所在地	長崎県佐世保市折橋町58-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 13日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内中心街に近い高台の新興住宅地にあり、施設周辺には住宅や公園、同法人の施設などが点在している。付近の住宅には子育て世代が多く、子供の声もよく聞かれ孤立感のない環境にある。コロナ禍により、今年は開催できなかったが、地域の方々も参加できるバーベキューや運動会などの行事を開催し、地域交流を図っており、理念の一つである”地域とともにアットホームで楽しく暮らせるホーム”を目指している。医療面においては、普段より特養ホームの医師や看護師と連携し、日常の健康管理や急変時にも対応できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市街地の高台にある。周囲を民家と緑に囲まれた環境に立地しており、同法人の診療所や特別養護老人ホーム等を併設している。医療面での連携を密に図っている強みがあり、重度の入居者の受け入れができています。毎年夏場にはバーベキューや近隣の公園で運動会を行っており、その際には地域住民にも呼びかけて、参加して頂く事で地域との交流を図り、理念である『地域とともにアットホームで楽しく暮らせるホーム』を実現している。現在はコロナ禍により地域との交流は自粛しているが、ホームでの様々な行事は地域住民の楽しみともなっている為、コロナ収束後は再開する意向である。職員は毎年法人施設長やカウンセラーと個別面談があり、普段の業務の中でも管理者へ相談しやすい環境を整備している。また、職員の資格取得の為に費用を法人が負担するなどの協力もあり、職員が働きやすい職場環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に提示し、職員各自の確認と共有を行い理念に沿った支援の実践を心掛けている。	ホーム理念である『個人の尊厳を尊重する。いつも優しい気持ちで接する。アットホームで地域の方と仲良く暮らす。』をホーム内に掲示し、毎日の出勤の際に目を通すことで職員への理念の周知を図っている。職員それぞれが理念について自覚を持ち、入居者の尊厳を尊重したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、バーベキューや運動会など地域の方々と一緒に楽しめる行事を行い交流機会を図っているが、今年度はコロナ禍の中で実施できず交流機会は減少。日常的に笑顔で挨拶を行ううなど良好な関係の継続に努めている。	コロナ禍前は母体法人が主催しバーベキューや近隣の公園で運動会を行い、地域住民の参加も多くあった。また、実習生の受け入れや保育園、小学校からの訪問も受け入れており、日頃より地域との交流を図っていた。地域と交流する機会は減少しているがコロナ禍収束後には再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議などを通じて地域の方々との交流や認知症の方の理解支援に努めている。今年度はコロナ禍の中で参加してもらった行事など実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍の影響により書面会議とし、施設からの報告が主となっている。	コロナ禍前の運営推進会議ではホームからの報告と意見交換が行われていたが、今年度は書面での会議を行い、ホームの運営状況報告が主となっている。運営推進会議には職員も交代で参加し、参加できなかった職員には議事録を閲覧する事で情報の共有を図っている。	書面での運営推進会議は一方通行になりやすい為、運営推進会議メンバーから意見を汲み取れるよう意見書を同封するなど工夫することが望ましい。また、コロナ禍により家族面会が少ない状況であることを踏まえ、会議録を発送するなど会議の内容を家族へ周知できる方法を検討することに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて活動等の報告をし、必要に応じて相談等を行い、協力関係の構築に努めている。	運営推進会議の開催時だけでなく、市の担当者と普段から報告相談を通じて連携を図っている。直近では、行政担当者へ原爆手帳を所持している入居者の手続き方法等について相談を行い、助言を受けて実施する事により、適切なホーム運営の実施に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員不足の時間帯など一時的に出入口の施錠行うこともあるが、やむを得ない場合も最小限に留め、対応が身体拘束に該当しないかなど、その都度職員同士で話をしたり、常に意識してケアに取り組んでいる。	ホームのフロアに身体拘束に該当する事項を貼り、職員が確認できるようにしている。職員は母体法人が行う研修会やホーム独自の勉強会に参加し、言葉遣いなど気になる場合には職員同士が注意し合い、また、適宜話し合いを行いながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	入居者の点滴治療などで一時的な拘束を行う事がある為、入居時の説明と、必要時にはその都度説明し、同意書を得るなど具体的に検討し取り組むことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解を深め、見過ごされることがないように職員同士で注意を促して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで理解する機会を持ち、関係者と情報共有、協力して制度の活用支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前もしくは入居契約時に、契約書などの内容に沿った説明と不明点の確認をしながら行っている。また後日でも不明点などあれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際などに近況報告行い、意向の確認を行っているが、現状、コロナ禍に伴い面会制限のため、花ぞ野便りや電話での報告行い要望を伺い職員間で検討し実施できるよう努めている。	入居者との普段の会話の中から意見を聞き取り、その都度対応を行っている。家族には毎月便りを送付し、適宜電話で意見を伺っている。伺った意見については、職員間で情報を共有し、話し合いを行いながら実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言える環境を心掛け、提案などを活かすよう努めている。また年に一度、職員それぞれが自己評価を提出、個別カウンセリングを行い意見を聞く機会を設けている。	入居者の状態に合わせたクッションや茶碗など、職員からの提案や要望により必要な物品を購入している。毎年、法人施設長やカウンセラーとの個別面談があり、職員が相談しやすい環境を整えている。職員の資格取得の為に費用を法人が負担するなどの協力もあり、職員が働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別手当などの給与面の環境、職員各々の条件に合った勤務体制、慰労会などの福利厚生充実など働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修やキャリアに応じた研修など、職員の能力や希望に沿った研修や勉強会に参加できるよう、勤務調整を行うなどの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や協議会などの活動にできるだけ参加し、情報交換などを行い、サービスの質の向上につながるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談などで不安・要望を伺い、困難な場合も会話や人物像・生活歴などから本人の意向を汲み取るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などに疑問や要望を確認し、いつでも相談できるような関係作りに努め、会話の中などからも家族の意向を確認できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報に基づき必要としている支援を見極め、必要時には他のサービス調整ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活が長く続けられるよう役割を持ったり、できるだけ自立を促し見守って、できないところを支援するなど、本人とともに生活し支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら、家族にもできる範囲での支援をお願いし、本人と共に支え合う関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人・知人の面会や、電話などのやり取りの支援行っている。感染予防のため面会制限を設けているが、タブレットを使ったビデオ通話など関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍前は昔からの友人や職場の元同僚などの面会があった。家族の支援で馴染みの場所への外出支援も行っていた。入居者の希望を伺い、計画的に外出支援を行っていた。現在はコロナ禍の影響により外出を自粛しているが、コロナ禍収束後は馴染みの人や場との関係継続の支援を再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係性を把握し、入居者同士の関係が快適なものになるよう食席の工夫や職員が間に入るなどして、一人一人が孤立しないよう心掛け支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても必要時には支援や相談ができるよう、本人や家族との関係を保てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出が困難な場合にも、入居者との日頃の会話や行動、人物像、家族とのやり取りなどから意向を汲み取り、日々の支援につながるよう努めている。	職員は入居者との日々の会話の中からその方の思いを把握し、口頭や連絡ノートを活用して全職員で情報を共有している。把握した思いや意向を記録として保管し、入居者の状態に合わせて介護計画に反映し適切なケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談などで、本人や家族、関係者から生活歴や暮らし方、サービス利用の経過などを可能な限り聞き取りし、職員間で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の入居者本人の様子やバイタルの変化などから、現状の心身状態や有する能力の把握に努め、職員間で共有し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の担当職員を中心にカンファレンスを行い、本人・家族の意向、状態、リハビリ担当者の意見などを反映して介護計画の作成に努めている。	介護計画は概ね6ヶ月に1回見直しを行っている。入居者は担当制となっており、担当職員がモニタリングやアセスメントを実施し、入居者の状態を把握し、本人の意向等を踏まえて介護計画を立案している。立案した介護計画の目標は全職員が把握し、介護計画に基づいたケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践や見直しに行かせるように日々の入居者の様子などを詳細に記録するようにし、連絡ノートなどでも職員同士で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や、家族の状況の変化に応じて、病院受診の付き添いや入院中の生活支援、ホームでの医療処置の対応など、柔軟な支援を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事の際など、ボランティアや近隣の保育園、学校からの訪問もあり楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設の診療所が主治医となり、日頃の健康管理、定期的な往診を行っている。本人、家族の希望や、適切な医療を受けられるように必要に応じて他科受診の支援も行っている。	入居時に家族へホームの協力医療機関を説明し、納得の上で主治医をホーム併設の診療所へ変更している。診療所の主治医による訪問診療により定期受診が行われている。他科や専門医への定期的な受診については家族が対応することとなっているが、緊急時等は職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、診療所に入居者の状況を報告し、状態に応じた指示や支援を受けている。定期的に診療所看護師の訪問もあり、相談や指導を受けられる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に面会し、病院関係者とも密に連絡を取り、治療経過や本人の様子、退院の時期などについて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やホームでの看取りについて説明。心身状態の変化に応じて診療所医師を交えて話し合い、本人、家族の意向の確認を行っている。意向や状態に応じて、看取りや併設の特別養護老人ホームへの転居など、安心した生活が送れるように対応、支援を行っている。	入居者の病状が悪化した場合は、家族・主治医と相談し、病院や特別養護老人ホームを紹介している。家族から希望があった場合は、主治医と連携し、ホームでの看取りも行っている。入居者の急変時には管理者や併設の特別養護老人ホーム職員と協力体制を築き、職員の精神的負担軽減に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会の実施や看護職員による指導にて急変時や事故発生時に適切に対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消火・避難訓練を実施。併設施設とも非常時の連携体制の確認を行っている。外部機関により定期的に消防設備の点検実施している。	年2回、併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を実施している。重度の入居者はシーツや毛布などを使用して避難する訓練も行った。避難訓練時には消火器の操作方法も併せて実施し、全ての職員が有事の際に慌てず的確な行動ができるようにしている。食料品等の備蓄品は併設施設で保管している。	避難訓練は合同で行っている為、消防計画は特別養護老人ホームで保管している。グループホームの職員も消防計画を把握し、防災への意識を高める為にも、常に消防計画を閲覧できるよう工夫することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴、人物像など職員間で共有し、入居者各々に合った声掛けや対応に努めている。	定期的に研修会を行い、入居者を尊重する接遇を心掛けている。職員は入居者のプライバシーに配慮し、居室を訪室する際は声をかけながらドアを開けるよう努めている。家族への便利には入居者の写真を掲載する為、入居時に写真掲載に関する同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表しやすいような環境作りと信頼関係を築けるように努め、思いの表出が困難な場合は普段の生活などから思いを汲み取り自己決定がしやすいように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大事にし、本人の希望や体調を考慮しつつ希望に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、できる限りその人らしい身だしなみができるよう支援している。レクで化粧やマニキュアをしたりとおしゃれを楽しむ支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに行事食を提供したり、寿司パーティーやたこ焼きパーティーなど、一緒に楽しみながら食事ができるよう支援に努めている。	食事はホームで作っている為、入居者が食べたい物や嗜好を確認し可能な範囲で提供している。入居者の状態に合わせてソフト食を提供し、安心して食事が楽しめるよう工夫している。入居者は茶碗を拭くなど、できることは職員と入居者が一緒に行い、生き甲斐のある生活が送れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックし、入居者個々の必要量の確保に努めている。摂取量が少ない場合には必要カロリーを摂取できるように栄養補助食品を提供、また嚥下状態に応じた食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の見守り、介助により口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医による口腔ケア指導、往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンの把握に努め、声掛け、誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者の重度化に伴い、現在は9割以上の入居者が夜間帯はオムツを着用しているが、日中はリハビリパンツを着用し、排泄チェック表に基づいてトイレでの排泄介助を行っている。水分摂取量に留意しながら排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維や乳製品、オリゴ糖を取り入れたり水分摂取量に注意している。数日間排便がない場合には診療所の指示のもと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を設けているが、本人の体調や気分によって柔軟に対応し個々に沿った入浴支援をしている。	入浴は週2回を基本としている。浴室にリフトを設置し、2人体制で介助を行う事で入居者が安心して入浴できる環境を整えている。ゆず湯などは入居者の皮膚への刺激が強いため控えているが、入浴を楽しんでもらえるように入浴剤を使用するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて休息時間を作ったり、安眠できるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服用している薬の内容などの把握に努め、処方の変更などがあった場合には連絡ノートに記載し情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皿洗いや洗濯物の整理などを手伝っていたり、ビールやコーヒーを楽しんだり一人ひとりの役割や楽しみごとの支援に努めている。またレク・行事や外出などで気分転換を図れるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化や最近ではコロナ禍の影響もあり、外出が難しい状態。気分転換に施設周辺の散歩や他のユニットに行って交流するなどの支援に努めている。	コロナ禍前はドライブや花見、初詣や遠足など外出する機会を設けていたが、現在は自粛している。自粛中でも入居者が閉じこらないよう周辺の散歩に出かけたり、季節に合わせてホーム内の飾りつけをするなど、職員が工夫し入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で金銭管理規定に基づき管理行っているが、希望に応じて本人が少額のお金を所持したり、買い物の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知人に電話をしたり、電話の取次ぎや手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱や転倒などによる事故防止のため整備と配慮に努め、季節に合わせて共用フロアや入り口など飾り付けし季節を感じて過ごせるような工夫を行っている。	新型コロナウイルス感染症対策として、出入り口に消毒液を設置し、職員にも個々に消毒液を配布した。1日に2回以上は換気を行い、空気清浄機も活用している。毎日モップ掛けと拭き掃除を行い、ホーム内を清潔にする事で入居者が快適に生活できる空間を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食席など、共用空間で入居者同士お互いの関係性や相性を考慮して、思い思いに過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのぬいぐるみや居室に家族の写真などを飾ったりと、本人が居心地よく安心して過ごせるよう配慮している。居室ごとに曜日を決めて清掃を行い、清潔な環境整備に努めている。	居室は日にちを決めてモップ掛けや洗面台の掃除を行っており、居室内の清潔を保持している。エアコンのフィルターは各部屋の担当者が掃除を行っている。入居者が使い慣れたタンスや、仏壇などを持ち込む事で居心地の良い空間づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態に合わせた環境整備を行い、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に提示し、職員各自の確認と共有を行い理念に沿った支援の実践を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、バーベキューや運動会など地域の方々と一緒に楽しめる行事を行い交流機会を図っているが、今年度はコロナ禍の中で実施できず交流機会は減少。日常的に笑顔で挨拶を行うなうなど良好な関係の継続に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や運営推進会議などを通じて地域の方々との交流や認知症の方の理解支援に努めている。今年度はコロナ禍の中で参加してもらった行事など実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍の影響により書面会議とし、施設からの報告が主となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて活動等の報告をし、必要に応じて相談等を行い、協力関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員不足の時間帯など一時的に出入口の施錠行うこともあるが、やむを得ない場合も最小限に留め、対応が身体拘束に該当しないかなど、その都度職員同士で話をしたり、常に意識してケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解を深め、見過ごされることがないように職員同士で注意を促して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで理解する機会を持ち、関係者と情報共有、協力して制度の活用支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前もしくは入居契約時に、契約書などの内容に沿った説明と不明点の確認をしながら行っている。また後日でも不明点などあれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際などに近況報告行い、意向の確認を行っているが、現状、コロナ禍に伴い面会制限中のため、花ぞ野便りや電話での報告行い要望を伺い職員間で検討し実施できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言える環境を心掛け、提案などを活かすよう努めている。また年に一度、職員それぞれが自己評価を提出、個別カウンセリングを行い意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別手当などの給与面の環境、職員各々の条件に合った勤務体制、慰労会などの福利厚生充実など働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修やキャリアに応じた研修など、職員の能力や希望に沿った研修や勉強会に参加できるよう、勤務調整を行うなどの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や協議会などの活動にできるだけ参加し、情報交換などを行い、サービスの質の向上につながるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談などで不安・要望を伺い、困難な場合も会話や人物像・生活歴などから本人の意向を汲み取るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などに疑問や要望を確認し、いつでも相談できるような関係作りに努め、会話の中などからも家族の意向を確認できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報に基づき必要としている支援を見極め、必要時には他のサービス調整ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活が長く続けられるよう役割を保持したり、できるだけ自立を促し見守って、できないところを支援するなど、本人とともに生活し支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら、家族にもできる範囲での支援をお願いし、本人と共に支え合う関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人・知人の面会や、電話などのやり取りの支援を行っている。感染予防のため面会制限を設けているが、タブレットを使ったビデオ通話など関係が途切れないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係性を把握し、入居者同士の関係が快適なものになるよう食席の工夫や職員が間に入るなどして、一人一人が孤立しないよう心掛け支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても必要時には支援や相談ができるよう、本人や家族との関係を保てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出が困難な場合にも、入居者との日頃の会話や行動、人物像、家族とのやり取りなどから意向を汲み取り、日々の支援につながるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談などで、本人や家族、関係者から生活歴や暮らし方、サービス利用の経過などを可能な限り聞き取りし、職員間で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の入居者本人の様子やバイタルの変化などから、現状の心身状態や有する能力の把握に努め、職員間で共有し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の担当職員を中心にカンファレンスを行い、本人・家族の意向、状態、リハビリ担当者の意見などを反映して介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践や見直しに行かせるように日々の入居者の様子などを詳細に記録するようにし、連絡ノートなどでも職員同士で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や、家族の状況の変化に応じて、病院受診の付き添いや入院中の生活支援、ホームでの医療処置の対応など、柔軟な支援を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事の際など、ボランティアや近隣の保育園、学校からの訪問もあり楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設の診療所が主治医となり、日頃の健康管理、定期的な往診を行っている。本人、家族の希望や、適切な医療を受けられるように必要に応じて他科受診の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、診療所に入居者の状況を報告し、状態に応じた指示や支援を受けている。定期的に診療所看護師の訪問もあり、相談や指導を受けられる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に面会し、病院関係者とも密に連絡を取り、治療経過や本人の様子、退院の時期などについて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やホームでの看取りについて説明。心身状態の変化に応じて診療所医師を交えて話し合い、本人、家族の意向の確認を行っている。意向や状態に応じて、看取りや併設の特別養護老人ホームへの転居など、安心した生活が送れるように対応、支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会の実施や看護職員による指導にて急変時や事故発生時に適切に対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消火・避難訓練を実施。併設施設とも非常時の連携体制の確認を行っている。外部機関により定期的に消防設備の点検実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴、人物像など職員間で共有し、入居者各々に合った声掛けや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表しやすいような環境作りと信頼関係を築けるように努め、思いの表出が困難な場合は普段の生活などから思いを汲み取り自己決定がしやすいように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大事にし、本人の希望や体調を考慮しつつ希望に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、できる限りその人らしい身だしなみができるよう支援している。レクで化粧やマニキュアをしたりとおしゃれを楽しむ支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに行事食を提供したり、寿司パーティーやたこ焼きパーティーなど、一緒に楽しみながら食事ができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックし、入居者個々の必要量の確保に努めている。摂取量が少ない場合には必要カロリーを摂取できるように栄養補助食品を提供、また嚥下状態に応じた食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の見守り、介助により口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医による口腔ケア指導、往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンの把握に努め、声掛け、誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維や乳製品、オリゴ糖を取り入れたり水分摂取量に注意している。数日間排便がない場合には診療所の指示のもと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を設けているが、本人の体調や気分によって柔軟に対応し個々に沿った入浴支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて休息時間を作ったり、安眠できるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服用している薬の内容などの把握に努め、処方の変更などがあった場合には連絡ノートに記載し情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皿洗いや洗濯物の整理などを手伝っていたり、ビールやコーヒーを楽しんだりと一人ひとりの役割や楽しみごとの支援に努めている。またレク・行事や外出などで気分転換を図れるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化や最近ではコロナ禍の影響もあり、外出が難しい状態。気分転換に施設周辺の散歩や他のユニットに行き交流するなどの支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で金銭管理規定に基づき管理を行っているが、希望に応じて本人が少額のお金を所持したり、買い物の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知人に電話をしたり、電話の取次ぎや手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱や転倒などによる事故防止のため整備と配慮に努め、季節に合わせて共用フロアや入り口など飾り付けし季節を感じて過ごせるような工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食席など、共用空間で入居者同士お互いの関係性や相性を考慮して、思い思いに過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのぬいぐるみや居室に家族の写真などを飾ったりと、本人が居心地よく安心して過ごせるよう配慮している。居室ごとに曜日を決めて清掃行い、清潔な環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態に合わせた環境整備を行い、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		